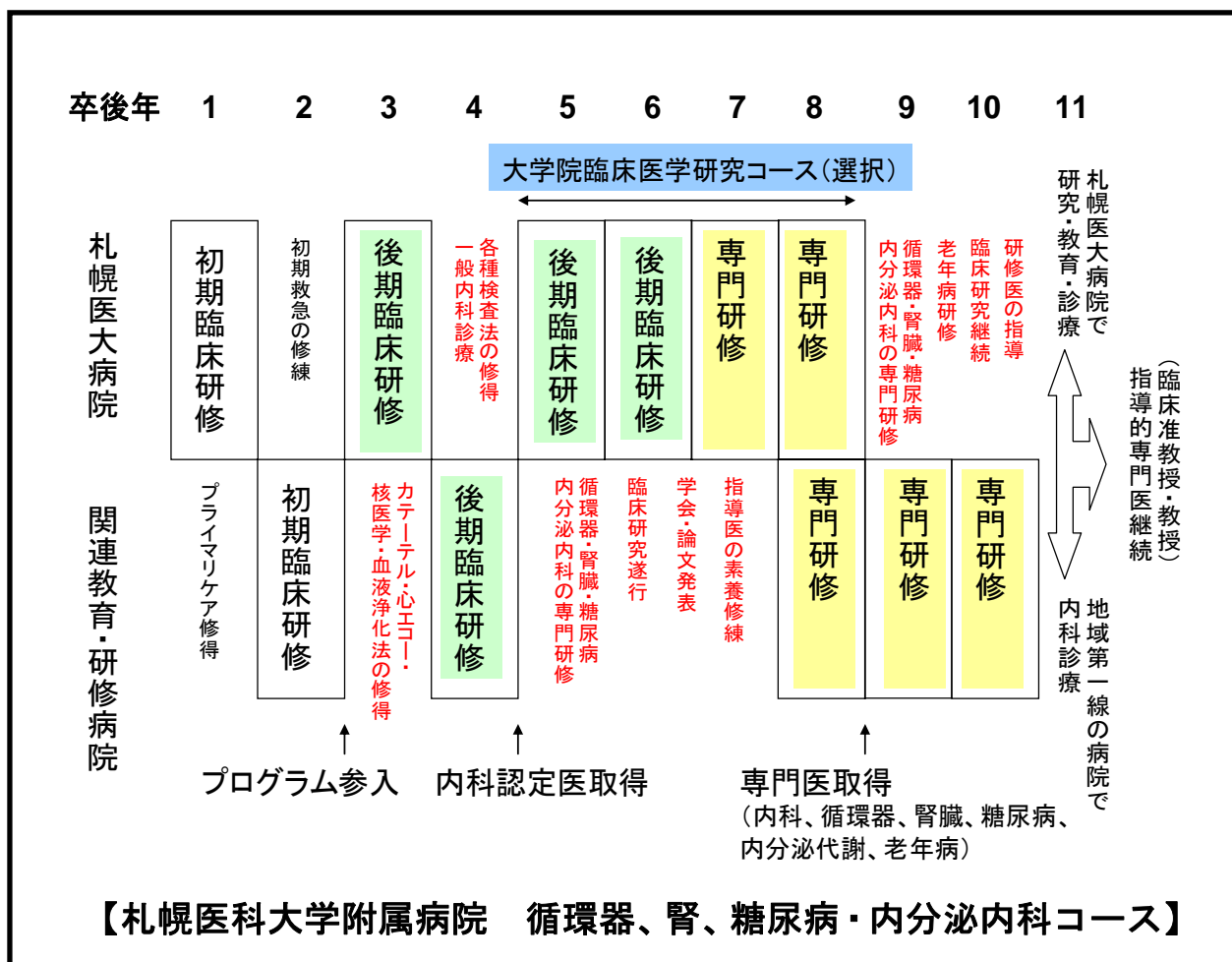


第2内科

循環器、腎、糖尿病・内分泌内科コース

(1) コースの全体像

①初期研修は1年目札幌医大病院、2年目関連病院を推奨。②3、4年目は循環器病学、腎臓病学、糖尿病・内分泌学に重点をおきながら内科全般を札幌医大病院、関連病院で研修する。札幌医大病院では心臓カテーテル検査、心臓超音波検査、心臓核医学検査、血液浄化のチームをローテーションする。また内科認定医の取得を目指す。③5年目からは循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科のいずれかを選択して札幌医大病院で専門研修を行い、希望により学位取得に向け、研究にも参加できる。④6年目以降は札幌医大病院、関連病院で専門性を活かした研修とともに研修医の指導法を学び、かつ各種専門医（循環器、腎臓病、糖尿病、内分泌代謝科）の取得を目標とする。⑤卒後10年目まではより専門性の高い研修を行い、希望によりインターベンション学会認定医、超音波専門医、透析専門医、老年病専門医の取得をめざす。②④⑤の一部は本プログラムの他コースの一部も選択できる。



(2) コースの概要

コース名： 札幌医科大学附属病院 循環器、腎、糖尿病・内分泌内科コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
札幌医科大学附属病院	第二内科	内科・循環器内科・腎臓内科・糖尿病・内分泌内科・老年病科	12	一般内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、老年医学の研修 他コースの研修医も研修可能。	24	4～6年
函館五稜郭病院	内科	循環器内科 腎臓内科	8	循環器内科、腎臓内科の研修。 他コースの研修医も研修可能。	2	1～2年
市立室蘭総合病院	内科	循環器内科 腎臓内科	6	循環器内科、腎臓内科の研修。 他コースの研修医も研修可能。	1	1～2年
製鉄記念室蘭病院	内科	循環器内科 腎臓内科	9	循環器内科、腎臓内科の研修。 他コースの研修医も研修可能。	1	1～2年
王子総合病院	内科	一般内科 循環器内科 腎臓内科	7	一般内科、循環器内科、腎臓内科の研修。 他コースの研修医も研修可能	2	1～2年
帯広厚生病院	内科	循環器内科 腎臓内科	7	循環器内科、腎臓内科の研修。 他コースの研修医も研修可能	2	1～2年
帯広協会病院	内科	循環器内科 腎臓内科	5	循環器内科、腎臓内科の研修。 他コースの研修医も研修可能	2	1～2年
旭川赤十字病院	内科	循環器内科 腎臓内科	7	循環器内科、腎臓内科の研修。 他コースの研修医も研修可能	4	1～2年
JR 札幌病院	内科	循環器内科 腎臓内科	4	循環器内科、腎臓内科の研修。 他コースの研修医も研修可能	1	1～2年
手稲溪仁会病院	内科	循環器内科 腎臓内科	12	循環器内科、腎臓内科の研修。 他コースの研修医も研修可能	1	1～2年
天使病院	内科	循環器内科	2	循環器内科の研修。 他コースの研修医も研修可能	1	1～2年
社会保険総合病院	内科	循環器内科	4	循環器内科の研修。 他コースの研修医も研修可能	1	1～2年
札幌南1条病院	内科	循環器内科 腎臓内科	4	循環器内科、腎臓内科の研修。 他コースの研修医も研修可能	1	1～2年
札幌循環器病院	内科	循環器内科 腎臓内科	7	循環器内科、腎臓内科の研修。 他コースの研修医も研修可能	2	1～2年
道立江差病院	内科	循環器内科 腎臓内科	2	循環器内科、腎臓内科の研修。 他コースの研修医も研修可能	2	1～2年
札幌共立五輪橋病院	内科	一般内科 循環器内科 腎臓内科	4	一般内科、循環器内科、腎臓内科の研修。 他コースの研修医も研修可能	1	1～2年
札幌西円山病院	内科	一般内科 老年病科	7	一般内科、老年医学の研修。 他コースの研修医も研修可能	1	1～2年

(3) コースの実績

2009年の札幌医科大学附属病院第2内科・17関連教育病院を合わせたコース全体の新規入院患者は月平均1,285例、外来患者は一日平均2,826例、心臓カテーテル検査6,706例、冠動脈インターベンション1,991例、電気生理検査380例、心エコー検査42,900例、心臓核医学検査5,459例、血液透析1,055例、腹膜透析191例であり、受け入れ人数が内科認定医、各種専門医を取得するのに十分な実績がある。

(4) コースの指導状況

札幌医科大学附属病院第2内科の教育スタッフとして内科指導医11名、循環器専門医16名、心血管インターベンション学会指導医2名、腎臓病専門医2名、糖尿病専門医2名、内分泌代謝科指導医・専門医1名、超音波医学会専門医2名、老年病専門医3名がおり、また関連教育病院にも専門医、指導医が常勤し学会専門医研修施設、研修関連施設の指定を受けている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	認定内科医
資格要件	<p><認定医申請資格></p> <p>【受験資格】 次の〔A〕、〔B〕をそれぞれ満たすこと</p> <p>〔A〕 日本国の医師免許証を持ち、所定の期間本会が認定した施設で内科臨床研修を修了した者。</p> <p>(1) 2003年（平成15年）以前の医師国家試験合格者。</p> <p>次記の1、2、3、4のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了していること。</p> <p>①本会が認定した教育病院での研修3年以上、または本会が認定した教育病院での研修2年以上に本会が認定した教育関連病院での研修を加えた年数が3年以上あること。</p> <p>②本会が認定した教育病院で1年以上研修を行ってから内科臨床大学院に進んだ場合は、計3年以上の研修歴があること。</p> <p>③大学医学部卒業後直ぐ内科臨床大学院に進んだ場合は、3年以上の研修歴があること。</p> <p>④本会が認定した教育関連病院での研修が5年以上あること。</p> <p>(2) 2004年（平成16年）以後の医師国家試験合格者。</p> <p>次記の1、2のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了していること。</p> <p>①臨床研修2年＋本会が認定した教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上＝計3年以上</p> <p>②臨床研修2年＋本会が認定した教育関連病院での内科研修1年以上＝計3年以上</p> <p>（必修化された臨床研修の2年間は教育病院での研修扱いとする。）</p>

	<p>〔B〕 受験申込時本会会員で会費を完納している者</p> <p>【提出書類】 受持入院患者 18 症例の一覧表、18 症例の病歴要約、プレゼンテーション資料、 A C L S 受講修了証のコピー、臨床研修修了証のコピー（2004 年以後の医師 国家試験合格者のみ提出）。</p> <p>これらの【受験資格】と【提出書類】を満たし、認定内科医資格認定試験（筆記試験）に合格した者を認定内科医として認定する。</p>
--	---

学会の連携等の概要

学会主催の年次講演会、生涯教育講演会、専門医部会教育セミナー、内科学の展望ならびに北海道支部が主催する生涯教育講演会や地方会に積極的に参加し、内科全般の専門的知識を修得する。

学会等名	日本内科学会
資格名	総合内科専門医
資格要件	<p><受験資格></p> <p>現在認定内科医と認定されている者で、受験申込み時連続して 3 年以上（休会期間を含めない）の会員歴を有し、会費を完納し、次の〔A〕、〔B〕のいずれかに該当する内科研修歴を有する者。</p> <p>〔A〕 認定内科医資格取得後、本会が認定した教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修 1 年以上+本会が認定した教育関連病院での内科研修 2 年以上=計 3 年以上（計 3 年以上のうち、最低でも 1 年以上は本会が認定した教育病院での内科研修が必要である）</p> <p>〔B〕 認定内科医資格取得後、本会が認定した教育関連病院での内科研修 5 年以上</p> <p><提出書類></p> <p>受持入院患者 20 症例の一覧表 上記 20 症例の病歴要約</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 20 症例中 18 症例の病歴要約。 内科の 9 分野から各 2 症例ずつ同一疾患を避けて作成すること。 2. 外科転科症例 2 症例－ 1 の症例と重複することはできない。 3. 剖検症例 2 症例－ 1 の症例と重複することができる。 <p>学会または医学雑誌に発表した臨床研究（基礎的な研究は除く）、または first author で報告した症例報告のいずれかで計 2 件の業績を提出すること。</p>

	筆記試験の「総合得点」と「分野毎の得点」および「研修に関する記録の評価」の総合成績により合否判定を行う。
<p>学会の連携等の概要</p> <p>学会主催の年次講演会、生涯教育講演会、専門医部会教育セミナー、内科学の展望、北海道支部主催の生涯教育講演会や地方会に積極的し、また学会認定のセルフトレーニング問題等で内科全般の専門的知識を修得する。</p>	

学会等名	日本循環器学会
資格名	日本循環器学会認定専門医
資格要件	<p><受験資格> 次の各項の条件を全て満たすもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国の医師免許証を有し、医師としての人格及び見識を備えていること。 2. 申請時において本学会会員であり、かつ通算して6年以上の会員歴を有すること。 3. 日本内科学会認定内科医、もしくはこれと同等と認められる学会認定医の資格を有すること。 4. 6年以上の臨床研修歴を有すること。6年のうち3年以上は日本循環器学会（以下、本学会）指定の研修施設で研修していること。平成16年以降に医師免許を取得したものは各認定医取得後、3年以上本学会指定の研修施設で研修していること。 <p><提出書類></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器専門医資格認定審査申請書 2. 診療実績表 3. 指定施設研修終了証明書 <p>【提出書類】の審査に合格し、資格認定試験（筆記試験）に合格した者を日本循環器学会認定専門医として認定する。</p>

<p>学会の連携等の概要</p> <p>学会主催の年次学術集会、北海道支部主催の生涯教育講演会や地方会に積極的に参加し、全国レベルの循環器専門知識・技能を修得する。また、学会主催の BLS・ACLS 講習会で循環器救急、心肺蘇生法を修得する。</p>	
---	--

学会等名	日本腎臓学会
資格名	日本腎臓学会腎臓専門医
資格要件	<p><受験資格> 次の各項の条件を全て満たすもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本邦の医師免許を有し、医師としての人格及び見識を備えていること。

	<p>2. 本会の会員歴が継続して5年以上であること。</p> <p>3. (社)日本内科学会認定医取得後3年以上、(社)日本小児科学会専門医、(社)日本外科学会専門医及び(社)日本泌尿器科学会専門医は取得後1年以上であること。</p> <p>4. 本会が指定する研修施設において、別に定める研修カリキュラムに基づく 研修を3年以上行っていること。</p> <p><提出書類></p> <p>1. 専門医資格審査申請書</p> <p>2. 履歴書</p> <p>3. 指定研修施設の研修終了証明書</p> <p>4. 前項の(3)の学会認定医或いは専門医認定証の写し</p> <p>5. 経験症例の記録及び要約</p> <p>【提出書類】の審査による適格者に対して筆記試験を行い、症例記録・要約の内容と筆記試験の点数に基づき、総合的に専門医資格の可否判定を行う。</p>
--	--

<p>学会の連携等の概要</p> <p>学会主催の年次学術集会、東部・西部学術大会に積極的に参加し、腎臓病の専門知識・技能を修得する。また、若手医師を対象としたセミナーで、連携病院で補え切れなかった全国レベルの知識・技能を補完する。</p>	
--	--

学会等名	日本内分泌学会
資格名	内分泌代謝科専門医
資格要件	<p><受験資格> 次の各項の条件を全て満たすもの。</p> <p>1. 申請時において、継続3年以上または通算5年以上日本内分泌学会(以下、本会)の会員であること。</p> <p>2. 申請時において、基幹学会の認定医(または専門医)として認められている者。</p> <p>3. 内科系にあつては日本内科学会認定医、小児科系にあつては日本小児科学会の専門医として認められている者。</p> <p>4. 内科系にあつては、内科認定研修の課程を修了後、申請時まで3年以上、日本内分泌学会認定教育施設において内分泌代謝科指導医(特例指導医)の指導のもとで内分泌代謝疾患の診療に従事している者。</p> <p>5. 内分泌代謝疾患臨床に関する学会発表、又は論文発表が5編以上あり、少なくとも2編は筆頭者であること。</p> <p>6. 内分泌代謝疾患相当例以上の入院および外来の診療経験を有する者。</p>

	<p><提出書類></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門医認定申請書 2. 履歴書 3. 医師免許証（写し） 4. 30 症例以上（外来含む）の病歴と臨床経過要約（教育責任者の証明印のあるもの） 5. 症例一覧表（上記(4)記載の症例について施設名、診療年月等を一覧表に示す） 6. 業績目録 7. 同じ基幹診療科の日本内分泌学会代議員（指導医）の推薦書 8. 基幹学会認定医（専門医）認定証（写し） 9. 継続3年以上または通算5年以上本学会の会員であることの証明書 <p>【提出書類】の審査に合格し、資格認定試験（筆記試験）に合格した者を内分泌代謝科専門医として認定する。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>学会主催の年次学術集会、臨床内分泌代謝 Update、内分泌代謝学サマーセミナーならびに北海道支部が主催する地方会に積極的に参加することで、内分泌代謝学の専門知識・技能を修得する。</p>	

学会等名	日本糖尿病学会
資格名	日本糖尿病学会専門医
資格要件	<p><受験資格> 次の各項の条件を全て満たすもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国の医師免許証を有し、医師としての人格および識見を備えていること。 2. 申請時において、連続3年以上糖尿病学会の会員であること。 3. 認定内科医の課程を終了後、糖尿病学会により認定された教育施設において3年以上の期間にわたって常勤者として糖尿病臨床研修を行っていること。 4. 申請時に日本内科学会の認定内科医として認定されていること。 5. 糖尿病臨床に関する、筆頭者としての学会発表または論文が2編以上あること。 6. 入院糖尿病患者40症例以上の治療経験を有すること。 <p><提出書類></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門医認定申請書 2. 履歴書 3. 医師免許証（写し） 4. 認定教育施設研修開始同意書 5. 認定教育施設カリキュラム

	6. 認定教育施設研修修了証明書 7. 症例記録 8. 業績目録 9. 研修指導医の推薦書 10. 日本内科学会専門医認定書（写し） 【提出書類】 の審査に合格し、資格認定試験（筆記試験）に合格した者を日本糖尿病学会専門医として認定する。
--	---

学会の連携等の概要
 学会主催の年次学術集会、糖尿病学の進歩ならびに北海道支部が主催する地方会に積極的に参加することで、糖尿病学の専門知識・技能を修得する。

学会等名	日本心血管インターベンション学会
資格名	日本心血管インターベンション学会認定医
資格要件	<p><申請資格> 次の各項の条件を全て満たすもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 申請時に3年以上継続して日本心血管インターベンション学会（以下、本学会）会員であること。 2. 本学会が指定する研修施設あるいは研修関連施設で3年以上の心血管インターベンション治療の研修をしたもの。 3. 本学会が指定する研修施設あるいは研修関連施設で200例以上の心血管インターベンション治療の経験があること。 4. 心血管インターベンションに関する研究業績が2つ以上あること。 5. 所属地方会の本学会評議員1名の推薦があること。 <p><提出書類></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認定医認定申請書 2. 履歴書 3. 研修証明書 4. 診療実績表（200例分） 5. 研究業績目録 6. 医師免許証（写し） 7. 評議員の推薦状 <p>【提出書類】を日本心血管インターベンション学会認定医審議会において審査し、認定医として必要な条件を満足するものを認定医として認定する。</p>

学会の連携等の概要
 学会主催の年次学術集会、ライブデモンストレーションならびに北海道支部が主催する地方会に積極的に参加することで、心血管インターベンションの専門知識・技能を修得する。

学会等名	日本超音波医学会
資格名	日本超音波医学会認定超音波専門医
資格要件	<p><受験資格> 次の各項の条件を全て満たすもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国の医師免許証を有し、医師としての人格および見識を備えていること。 2. 申請時において、5年以上日本超音波医学会（以下、本会）の正会員であること。 3. 本会の指定する超音波専門医研修施設において、日本超音波医学会指導医のもとに、研修要綱に基づいた研修を終了していること。 4. 業績及び臨床研修が本会の定める基準に達していること。 <p><提出書類></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認定試験受験申請書 2. 業績（筆頭者として5編以上の超音波医学に関する学会発表あるいは学術論文）の表およびそれを証明する別刷りないしコピー 3. 診療実績表 4. 指定施設研修修了証 5. 指導医の意見書 6. 日本国医師免許証のコピー <p>【提出書類】の審査に合格し、専門医認定試験（筆記試験）に合格した者を日本超音波医学会認定超音波専門医として認定する</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>学会主催の年次学術集会、北海道支部主催の地方会に積極的に参加し、超音波医学の専門知識・技能を修得する。また、若手医師を対象とした教育セッションで、連携病院で補え切れなかった知識・技能を補完する。</p>	

学会等名	日本透析医学会
資格名	日本透析医学会専門医
資格要件	<p><受験資格> 次の各項の条件を全て満たすもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国の医師免許証を有し、医師としての人格および識見を備えていること。 2. 日本内科学会および日本外科学会において定められたいずれかの認定医または、専門医、日本泌尿器科学会および日本小児科学会において定められたいずれかの専門医、もしくは日本麻酔学会において定められた指導医の資格を有し、臨床経験5年以上を有すること。 3. 認定施設または教育関連施設において本会の専門医制度委員会の規定によって編成された研修カリキュラムに従い通算5年以上、もしくは本会の専門医制度委員会が認める外部団体主催の研修期間も含

	<p>めて計 5 年以上、主として透析療法に関する臨床研修を行いかつ業績のあること。</p> <p>4. 学会出席ならびに業績について 30 単位を満たしていること。</p> <p>5. 申請時において、本会の会員歴 5 年以上、もしくは本会会員歴 3 年以上でかつ 2. に記載されている他学会の会員歴を含めて 5 年以上であること。</p> <p><提出書類></p> <p>1. 診療実績 (以下に示す最低必要項目と症例数を満たしているもの) :</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;"></th> <th style="width: 20%;">経験症例</th> <th style="width: 20%;">病歴要約維持透析症例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>析症例</td> <td>10 例</td> <td>5 例</td> </tr> <tr> <td>慢性腎不全透析導入症例</td> <td>5 例</td> <td>3 例</td> </tr> <tr> <td>急性腎不全血液浄化症例</td> <td>3 例</td> <td>2 例</td> </tr> <tr> <td>IPD または CAPD 症例</td> <td>2 例</td> <td>2 例</td> </tr> <tr> <td>血液透析装置組み立て及び操作症例</td> <td>2 例</td> <td>1 例</td> </tr> <tr> <td>バスキュラーアクセス作成症例</td> <td>3 例</td> <td>2 例</td> </tr> <tr> <td>一時的バスキュラーアクセス留置例</td> <td>2 例</td> <td>1 例</td> </tr> <tr> <td>透析症例剖検例</td> <td>1 例</td> <td>1 例</td> </tr> <tr> <td>その他の血液浄化法</td> <td>2 例</td> <td>2 例</td> </tr> <tr> <td>腎移植症例</td> <td>1 例</td> <td>1 例</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td>31 例</td> <td>20 例</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 業績リスト</p> <p>試験の可否は、1) 書類審査 2) 客観式筆記試験 3) 口答試問試験の総合判定で決定し、合格したものを日本透析医学会専門医として認定する。</p>		経験症例	病歴要約維持透析症例	析症例	10 例	5 例	慢性腎不全透析導入症例	5 例	3 例	急性腎不全血液浄化症例	3 例	2 例	IPD または CAPD 症例	2 例	2 例	血液透析装置組み立て及び操作症例	2 例	1 例	バスキュラーアクセス作成症例	3 例	2 例	一時的バスキュラーアクセス留置例	2 例	1 例	透析症例剖検例	1 例	1 例	その他の血液浄化法	2 例	2 例	腎移植症例	1 例	1 例	計	31 例	20 例
	経験症例	病歴要約維持透析症例																																			
析症例	10 例	5 例																																			
慢性腎不全透析導入症例	5 例	3 例																																			
急性腎不全血液浄化症例	3 例	2 例																																			
IPD または CAPD 症例	2 例	2 例																																			
血液透析装置組み立て及び操作症例	2 例	1 例																																			
バスキュラーアクセス作成症例	3 例	2 例																																			
一時的バスキュラーアクセス留置例	2 例	1 例																																			
透析症例剖検例	1 例	1 例																																			
その他の血液浄化法	2 例	2 例																																			
腎移植症例	1 例	1 例																																			
計	31 例	20 例																																			

学会の連携等の概要

学会主催の年次学術集会に加え、日本急性血液浄化学会、日本アフェレシス学会などの関連学会の学術集会ならびに北海道支部が主催する地方会に積極的に参加することで、透析医学の専門知識・技能を修得する。

学会等名	日本老年医学会
資格名	老年病専門医
資格要件	<p><受験資格> 次の各項の条件を全て満たすもの。</p> <p>1. 日本国の医師免許証を有し、医師としての人格及び見識を備えていること。</p> <p>2. 申請時において継続 3 年以上本学会の会員であること。</p> <p>3. この規則により認定される認定施設において、日本内科学会認定医</p>

	<p>資格を取得後、3年以上の期間にわたって、本規則に規定する研修カリキュラムに従って、老年病学臨床研修を終了したものとする。</p> <p>4. 本学会が施行する専門医のための試験に合格すること。</p> <p><提出書類></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門医申請書 2. 履歴書 3. 認定施設研修終了証明書 4. 診療実績表 5. 指導医の推薦書 6. 医師免許証（写し） 7. 日本内科学会認定医認定証の写し <p>資格認定委員会は申請書類によって受験資格についての審査を行い、有資格者を対象とした専門医試験に合格したものを老年病専門医として認定する。</p>
<p>学会の連携等の概要</p> <p>学会主催の年次学術集会にならびに北海道支部が主催する地方会に積極的に参加することで、老年医学の専門知識・技能を修得する。</p>	